

ソ × ギ ュ
S O M M E I L

解説

必ずゲームを終えてから読み始めてください。

【スピードの正体】

脅された天才科学者

宇宙船に乗る5年前に起こった事故(第1回ヘルメス起動実験)により、2名の死者を出しています。そのことが心の傷になっていました。

また、今回宇宙に飛び立つ前に2つの事件が起こります。1つはチーフに会ってしまったことです。彼女は5年前の事故で死んでしまった自分の相棒(=アクセル)の娘でした。もう1つは謎の脅迫メールが送られてきたことです。「ヘルメスの研究データを西側諸国に送れ」という内容で脅迫を受けていました。

スピードの目標

スター殺害事件について

真犯人を特定する。 12点

スリープ失踪事件について

真犯人を特定する。 5点

捜査中でのミッション

目標A

東側諸国への帰還の準備を完了する 5点

目標B

「ヘルメスの知識」をデータルームから西側諸国に送る 3点

「脅迫状」というカードがある場合、3点追加されます。

目標C

過去に、ヘルメス起動実験を無理に行い被害者を出してしまっていることが誰にも知られない 5点

目標Cが変更された場合

・特定のアイコンが書かれたカードが3枚以上公開されると、上記の秘密がバレたと判断され、東側諸国に帰還する目標が「メルフ星に到達する」に変更されます。その場合、「脱出ポッドに乗る」か、「テラマラの行き先をメルフ星」に設定すれば達成できます。

【チーフの正体】

嫉妬に狂った愛国者

チーフは厳格な父(=アクセル)に虐待されて育ったのですが、父が事故で急に亡くなり(第1回ヘルメス起動実験の事故)解放されます。その後、彼女は奨学金などの国(東側諸国)の制度をつかい、勉学に励み、この国の制度の素晴らしさに気づき、愛国心に目覚めます。また、チーフはコールドに想いを寄せていましたが、その恋心は叶うことはありませんでした。結果的に、スリープがいたからです。そこからチーフはスリープが憎くてたまりませんでした。偶然にも今回の作戦で再会したため、スリープをこの船から追い出そうと画策します。

そこで彼女の指輪を脱出ポッドの1つに隠し、彼女が指輪を探してポッドに入ると罠が作動、彼女が脱出ポッドによって飛ばされるという仕掛けを施します。また、彼女が脱出ポッドを探すようにするために、彼女が入るカプセルAに手紙を隠しました。

チーフの目標

スター殺害事件について

真犯人を特定する。 5点

スリープ失踪事件について

自身が犯人として特定されない。 7点

捜査中でのミッション

目標1

東側諸国への帰還の準備を完了する 8点

目標2が明かされている場合

特殊カードCにスパイの名前を記載してデータセンターから送信する 5点
>「キャップ」もしくは「パイロ」と書かれていた場合達成

目標3が明かされている場合

脱出ポッドを使えなくする 5点
>状態カード「脱出ポッドルーム」が取り除かれていた場合達成

目標4

初期カード「ワイヤー」を手放す 未達成の場合-3点
>初期カードが廃棄エリアにある場合達成



【キャップの正体】

殺人も厭わない、西側諸国のスパイ

キャップの正体は西側諸国のスパイです。彼の今回の任務は「ヘルメスの情報を奪う」と「ヒュプノス開発者殺害」でした。そのため彼は、スピードに脅迫メールを送りつけ、自身から情報漏洩するように仕向け、コールドとスリープを殺害しようとします。

しかし、殺害は失敗してしまったため、任務の続行は難しいと判断、舵を切り直し、今後の西側諸国のためにヘルメス開発者とヒュプノス開発者の逮捕のために動いています。

キャップの目標

スター殺害事件について

コールド、もしくはスピードを拘束する。 **6点**

スリープ失踪事件について

コールド、もしくはスピードを拘束する。 **6点**

捜査中のミッション

目標1

東側諸国への帰還の準備を完了する。 **8点**

目標2

スピードがヘルメスの研究データをデータルームから送信する。

または、ヘルメスの研究データを手に入れる。 **7点**

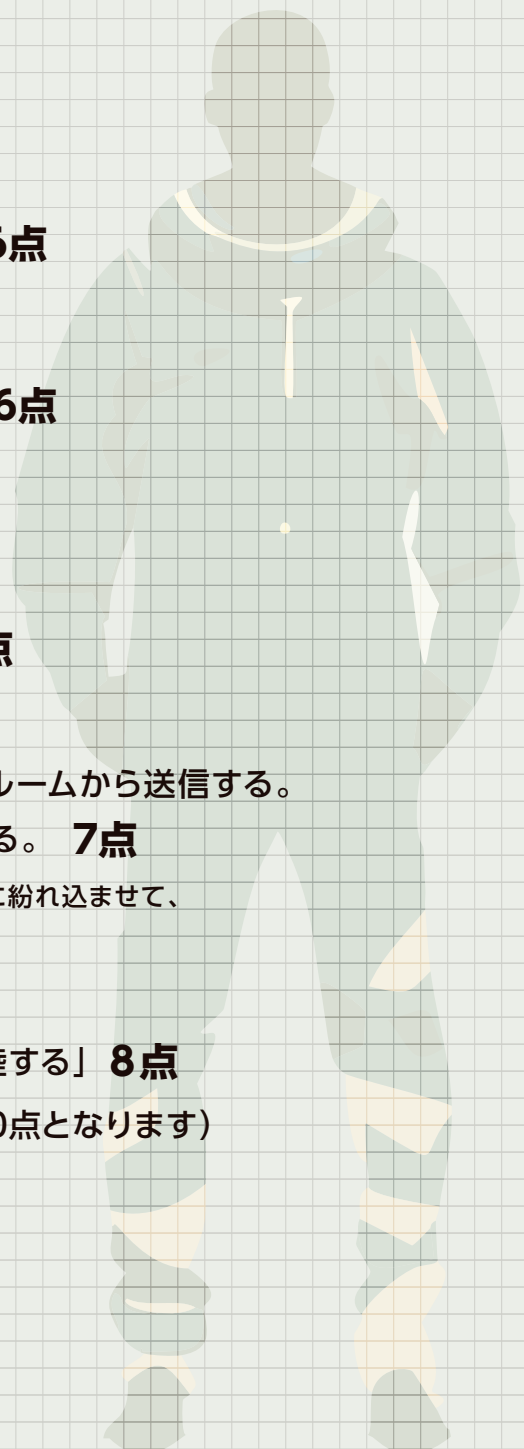
※初期カード「脅迫状」をスピードの調査カードの中に紛れ込ませて、

目標②を達成した場合 **10点**

目標3が明かされていた場合

この船の行き先を変更し、「西側諸国に着陸する」 **8点**

(この目標が明かされている場合、目標1は0点となります)



【パイロの正体】

帰省を夢見る宇宙人

パイロの正体はメルフ星人です。メルフ星人は100年ほど前に皆さんの星の西側諸国に不時着します。その際、宇宙船が壊れてメルフ星に帰れなくなり、この星での生活を余儀なくされました。そこで、星に帰る機会を今か今かと待ち望んでおり、今回のミッションに漕ぎ着けます。西側諸国に所属していたため、西側スパイとして今回のミッションに参加。キャップともコンタクトを取っています。しかし、真の目的はこのテラマラでメルフ星に帰還することでした。

また、船に乗った後に、ペンダント型通信機を作成しています。これは、メルフ星付近にきた時に、自分たちの星の仲間と電波通信するための機器なのですが、作成直後に無くしてしまっています。このペンダントはコールドがたまたま拾っていました。

パイロの目標

スター殺害事件について

真犯人を特定する。 6点

スリープ失踪事件について

真犯人を特定する。 6点

捜査中のミッション

目標1

惑星メルフへの帰還 10点

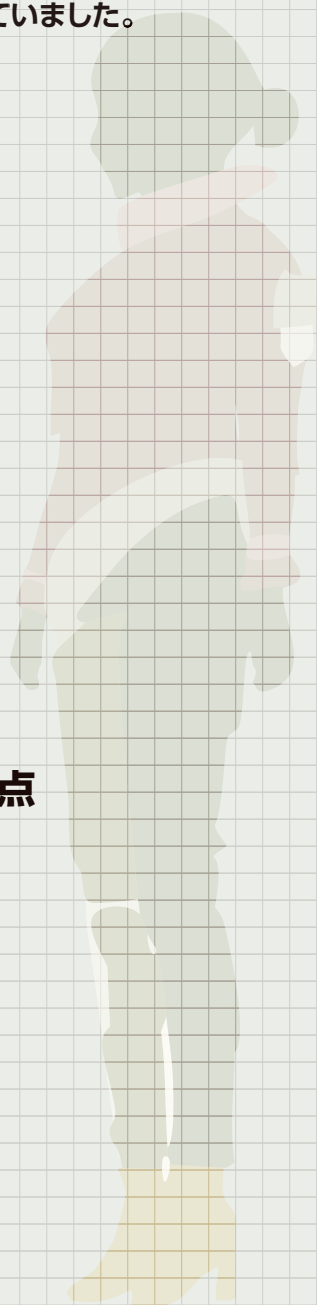
(メルフ星に辿り着ければ方角は問題ありません)

目標2

「ヘルメスの知識」「ヒュプノスの知識」を手に入れる 4点

目標3

ペンダントを回収する 4点



【コールドの正体1】

復讐を体現した存在

5年前の第1回ヘルメス起動実験の事故の際に、2名の人物が死亡しました。1人はチーフの父でスピードの相棒であるアクセル、もう1人は「ワープ」という少女です。ワープはコールドとスリープの間に生まれた子でした。この実験で娘を失った2人は、実験責任者であるスピードに恨みをもちます。

実際にどのように復讐すべきか方法が思いつかない2人にとんでもない事故が起こります。(キャップの工作により)自身が入るはずのヒュプノスカプセルが起動しなかったのです。このままでは、ヘルメスの起動時の重力で死んでしまうと思った2人は、一縷の望みをかけてヘルメスルームに入ります。すると何故かヘルメスが停止したのでした。これは、コールドが偶然拾ったペンダント型通信機が原因です。電波に弱いヘルメスは、ペンダントが放つ電波が原因で壊れてしまったのです。

九死に一生を得た2人は、このままいくと30年後に「スター」が最初に解凍されることに気がつきます。そこで狂気の作戦を思いつきました。

それは、スターが最初に目覚めた時に殺害し、スピードにその罪を着せるというものでした。しかし、30年後に殺害した場合、コールドとスリープの2人は60歳です。見た目から自分たちがヒュプノスを使っていないことがバレてしまいます。そこで、2人は狂気の計画を思いつき、宇宙船内で子供を産むことにしました。産まれてきた子供が女の子なら「スリープ」、男の子なら「コールド」に成り代わり、スター殺害を実行させるために育て始めたのです…。

男の子が生まれ、2人は彼(本名はタイム)を愛情を持って育てます。15歳になった時、この計画を話します。この話を聞いた彼(タイム)は、自分の姉を殺したスピードにしっかりと恨みをもち、この作戦を了承。成り代わりの準備が始まりました。

メルフ星付近に到着して解凍処理が始まる1ヶ月前、予期せぬ事故が起こります。デブリの衝突です。緊急解凍が開始され、様々な準備が完全に終わらないまま作戦を決行することになりました。コールド(父)とスリープ(母)は脱出ポッドを使いこの船を離脱。タイム(現在のコールド)は倉庫からナイフを取り出して、最初に目覚めたスターを殺害したのですが、彼女は倒れた際にカプセルAに入ってしまった。カプセルBに入れ直そうとしたものの、3番目に起きるはずのスピードが目覚めそうだったため、スターをそのままにして自分のカプセルに入り扉を閉めました。

【コールドの正体2】

コールドの目標

スター殺害事件について

- ・自身及びスリープが真犯人として特定されない 7点
- ・スピードが真犯人として特定される 10点

スリープ失踪事件について

- 自身及びスリープが真犯人として特定されない 7点

捜査中のミッション

目標①

東側諸国への帰還の準備を完了する。 3点

目標②

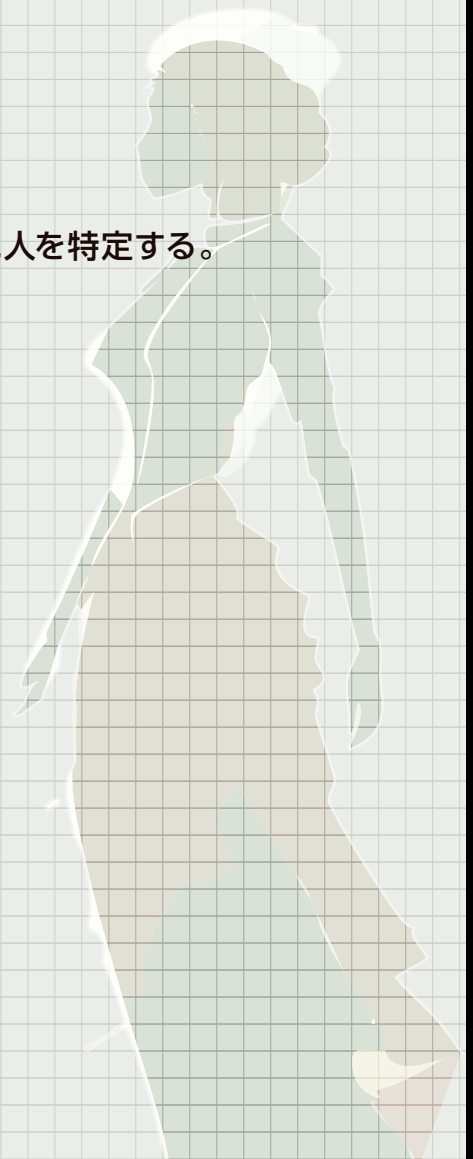
以下の謎を解明する。 3点

- ・両親が入るはずだったヒュプノスを破壊した犯人を特定する。

>「キャップ」と記載されていれば達成

- ・母を罠にかけようとしていた犯人を特定する。

>「チーフ」と記載されていれば達成



【様々な謎1】

本作にて犯人を導くには、「30年間で時間が経過している」ことに気がつき、「どうすれば、30年間姿が大きく変わらない状態でいられるか？」を考えた際に、「もしかしたら、子供がいるのではないか？」という発想の転換が必要となります。

その答えのヒントとなる情報は以下のようになります。

消えたスリープ

データルームを取り除くことで、スリープが船内にいないことが確定します。「脱出ポッド」の調査カードから、船外に出る唯一の方法である脱出ポッドがないことから、彼女は脱出ポッドを使って逃げた可能性が出てきます。

また、脱出ポッドの利用履歴から19:00頃に2回発射されていることから、彼女が生きてるにしろ死んでいるにしろ、この脱出ポッドに乗っていることがわかります。

なお、冷凍睡眠前にチーフは罠を仕掛けていますが、罠が仕掛けられたポッドが見つかることから、この罠自体が発火しなかったことがわかり、チーフは犯行に失敗していることがわかります。

スターの殺害-不可能な犯行-

今回のスター殺害を考えると、通常では不可能な犯罪であることがわかります。

まず、どのタイミングで刺すことができたのか？という点ですが、スターが刺されたタイミングは、キャラクターブックのそれぞれの記載から全員がほぼ同時にヒュプノスのカプセルに入ったと考えられるため、解凍後であると考えられます。

次に、ヒュプノスの仕様やデータルームから出てくるのそれぞれの身長を照らし合わせて考えた時、最初に目覚めたのはスターであることがわかります。

ここで考えられるのは、スリープが殺害した可能性なのですが、これは上記の脱出ポッドの出発時間とヒュプノスルームの扉の開閉によって否定されます。スリープが犯人なのであれば、ヒュプノスルームの扉の開閉時間が19:00より前の時刻でなければならないためです。

(次ページへ)

【様々な謎2】

ここで、改めて扉の開閉回数を数えてみると全部で7回となっています。それぞれの証言を付き合わせると、スピード・チーフ・パイロがヒュプノスルームから出入りしており、通常入るタイミングと出るタイミングで1回ずつカウントされることを考えると、1回分多いことがわかります。これが犯人が入ったタイミングだと考えることが可能です。

(出たタイミングだと考えた場合、この船内にいることは不可能なので脱出ポッドを使用したと考えるべきですが、脱出ポッドの使用時の時刻と矛盾します)

では、19:30台のこの時刻に入室することができた人物を考えるのですが、それには、誰よりも早く解凍処理されてデブリが衝突する前にヒュプノスルームを出ていないといけません。デブリが衝突したことによって解凍から目覚めたことが前提なので、これも矛盾してしまいます。

そのため、上記の問題を解決する方法は、「ヒュプノスを使用しない」ということになります。しかし、ヒュプノスを使用しなかった場合、本来であればヘルメスの重力に潰されてしまうため、不可能かのように思われます。ですが、もし「ヘルメスも起動していなかった」場合はそれが可能です。

しかし、ここで新たな問題が出てきます。ヘルメスを起動しなかった場合、どうやって現在地まで移動したのか?という問題です。現在地は、肉眼でメルフ星が見えていることや、東側諸国までの電波送信が3日かかることで出発地点から約777億km離れた位置であることは間違いありません。そうすると、テラマラは通常エンジン(時速30万km)でここまで移動してきたことになります。その場合、777億km離れた現在地点まで移動するとなると、計算すると30年経過していることがわかります。

こうなると、別の問題が発生します。冷凍睡眠しなかったとき、肉体が30年経過してしまうのです。ここからは「どうやったら30年を経過しても、若さを保っていられるのか?」を考えていくことになります。

【様々な謎3】

30年のヒント

複数の形でこの船内で30年経過していることが示されています。

扉の開閉記録や脱出ポッドの使用履歴から現在が「2185年」だということがわかります。また、ヘルメスの起動レポート、雑誌などのカードには「2150年代」の数字が出てきています。これが全て正しいとした場合、テラマラが飛び立ったのは座標のコード履歴から2155年ということがわかります。つまり、30年経過しているのです。

また、途中電卓のカードが出てきますが、時速30万kmで航行するこの船が777億km移動したときにかかる年月を計算すると約30年になることなども30年経過のヒントとなっています。

コールドが子供であることのヒント

コールド(タイム)が息子であることは次のような形でヒントが出ています。

スリープの部屋から出る調査カード

科学ノートというカードには「子供でもわかるように書かれている。」という記載があります。これは、コールド(タイム)に教えているためです。同様に、ヒュプノスの資料データのカードにも同じような記載があります。

読み合わせシートC

この部屋が狭いという会話のやりとりがありますが、少し違和感があります。パイロやチーフのセリフはキャップに対して君だけが大きすぎるんだという文言がありますが、これは健康診断のそれぞれの身長を考えると違和感があります。実際は、キャップよりもコールドの方が大きいのです。これがかなり直接的な違和感として書かれています。